



で、事故が起こらなくて当たり前のゼロベースだと思っていると、そこで事故が起これば、マイナス評価でもって、誰にどういう責任があるかという議論ばかりになります。

原因を究明することも大事ですが、そこに終始するのではなく、これからの安全は、安全の価値を転換させることと、安全の組織上の明確な位置づけ方をもう一度確認することが大切だと考えます。

それによって、安全をプラス評価するという仕組み。

少し不見識かもしれませんが、安全に取り組みたいというのは出世の必須アイテムだということが、各産業で言われるぐらいに安全の位置を高めたい。少し象徴的にいえば、社長になる人は、若い頃のキャリアの中で、必ず安全の仕事をどこかでやっているよ

うな、社長に就任する際のキャリアパスの前提に指定するぐらいになればと思っています。そういう意味では、安全の取り組みが面白い、安全がビジネスになるというぐらいの展開にはしていきたいと思っていますが、皆さんどうでしょう。

### 「安全を予知の科学へ」

最後になりますが、安全を予知の科学にしたいと思っております。

それは、現場で経験する中で、プロたちの直観による「これはおかしいのではないか」という予知と、これからはデータによる予知を融合させていくことが大事なのではないかと思えます。

それを通じて、専門研究所と現場の皆様の関係が、ますますいい関係で情報を共有できるような形で、少しでも私たちが、皆様の安全にしたいという想いに、支援できるように努力していきたいと思えます。

## 安全を予知の科学へ

### 現場起点の予知

#### データによる予知

- ビッグデータの解析
- ヒューマンファクター(生理・心理・行動データ)の分析
- 体調予報の実用化

## MEMO